

## 1 本年度の学校評価をふりかえって

今年度、本学院の地域協働活動は、これまで縁のなかった企業や団体からもお声がけいただくなど、コロナ禍であっても広がりを見せた。関係してくださった皆様に感謝している。今後、地域の祭りやボランティア活動等が早く再開されることを願っている。

行事では、昨年度中止された学院祭を、家族限定であるが公開し実施した。生徒作品展「明日のクリエイターたち」は、感染拡大により来場者が少なかったことが残念であった。今年度から中学生への広報活動の機会を増やしたので、その成果が徐々に表れてくれることを願っている。

3年生では、社会人基礎力のうち、チームで働く力の「発信力」があると回答した生徒が43%となった。さらに自信をもって「生きる力」や「社会人基礎力」が「ある」と言える生徒を育てたい。

## 2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	自己有用感を育む教育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、生徒同士が互いを認め合い高め合えるよう、表現の場や学び合いの場を設定した。行事において一人一役や縦割り活動を行うとともに、地域協働活動を積極的に推進した。</li> <li>・アンケート結果では、家庭での関係性がよいことがうかがわれた。コロナ禍でも家族を招待して学院祭や発表会が行われ、生徒の自信につながった。授業や行事、地域協働活動を通して、生徒の自己有用感が高められている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、表現の場や学び合いを大切に、授業や行事で、そして地域協働活動などを通して自己有用感を育む。</li> <li>・導入されるタブレットを積極的に活用し、個を生かす学習を推進し、生徒の主体性を伸ばして自己有用感の育成につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の明るく自信を感じさせる表情は、学校生活での充足と生きていく力を得ているようにかがえる。</li> <li>・不登校生徒をどのように指導していくのか、難しい問題であるが、取組を期待する。</li> </ul>
	主体的な進路選択を目指す計画的・組織的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の面談や、外部講師による講座やセミナー、進学対策等を通して、計画的、組織的な進路指導を行った。</li> <li>・特に3年部では、丁寧な進路指導で生徒の進路希望の実現を図ることができた。一方で、進路指導主任のリーダーシップに頼り、学年部との連携に課題がみられた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導主任と学年部の役割を明確にして業務を分担するとともに、学年部が各種講座に参加できるように調整する。</li> <li>・進路に関する研修を深めるよう、関係する教員に声かけをして参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な進路指導は評価できる。</li> <li>・芸術・美術領域での進路指導は一般高校とは少し異なるところもあり、教師の指導力、姿、刺激が一層大事になると思う。</li> </ul>
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動において、複数教員での指導により個に寄り添うようにしている。また、アンケート調査、生活満足度調査、生徒個々が書く手帳の活用により、いじめの早期発見に努めた。</li> <li>・いじめ事案はなく、周囲の人と良好な関係を築いているという生徒が96%にのぼる。SNS等で「嫌なことを書かれた」という生徒もいない。一方で、集団の中で過ごすことを苦手とする生徒もおり、人間関係に一層配慮していきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初の特別研修等を活用し、コミュニケーションスキルを高めるワークショップを実施する。</li> <li>・美大附ソーシャルメディアガイドラインを生徒の手で見直し、より主体性をもってメディアを活用する態度を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめなどが少ないことは生徒それぞれ学校教育や家庭愛を受ける面で充足度、満足感の高さの表れとも言えるのではないかと評価したい。</li> </ul>
家庭・地域との連携	社会性を育む地域協働活動（美大附デザインラボ）の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規でのデザインの依頼等も増え、活動の幅を広げることができた。</li> <li>・参加生徒に充実感や満足感が見られ、地域の人々と関わるこの活動は生徒の社会性の育成に結び付いている。報道されていない活動もあるため、全校生徒や保護者、また一般の方に取組の実際を周知する工夫が必要である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告として、写真にコメントを添えてweb上にアップし、生徒、保護者に公開する。また、一般への公開も検討する。</li> <li>・授業で取り組むものと有志が行うものなどを整理し、取り組む生徒の負担が大きくなるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な資料から、家庭や地域と良い関係性を構築できていると感じる。</li> </ul>
	秋田公立美術大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員の連携授業（3回）と美大生によるシンポジウム、学生にガイドしていただいた美大卒業生見学が行われた。</li> <li>・専門性の高い講話やワークショップが大学の講義室で行われ、生徒は芸術への造詣を深めるとともに、大学の雰囲気を感じ取ることができた。また、大学教員から、新たな作品展への出品についてお声がけいただいた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携を一層強め、大学教員や大学生から刺激を受けて、生徒の専門性を高めたい。</li> <li>・本学院70周年、美大プレ10周年の作品展等で連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の大学との連携は、芸術・美術の奥深く広い世界があることを知る貴重な機会であり、これまで以上に、より充実させてほしい。</li> </ul>